

山城北保健所管内の感染症発生動向調査

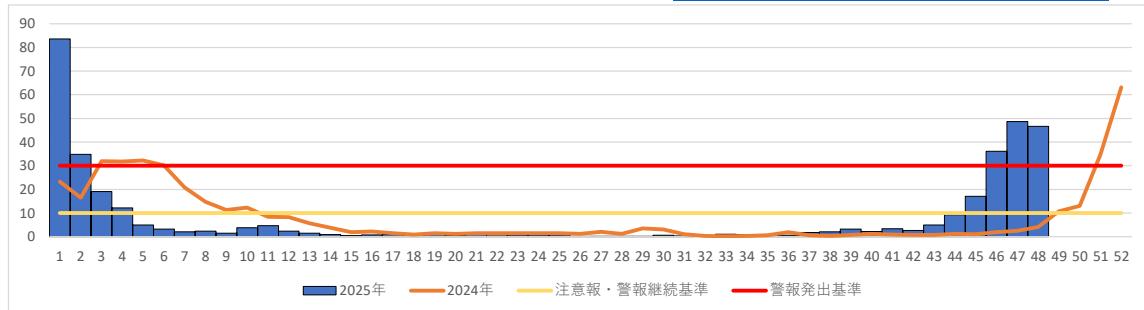
(ARI定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

2025年 第48週 (11月24日~11月30日)

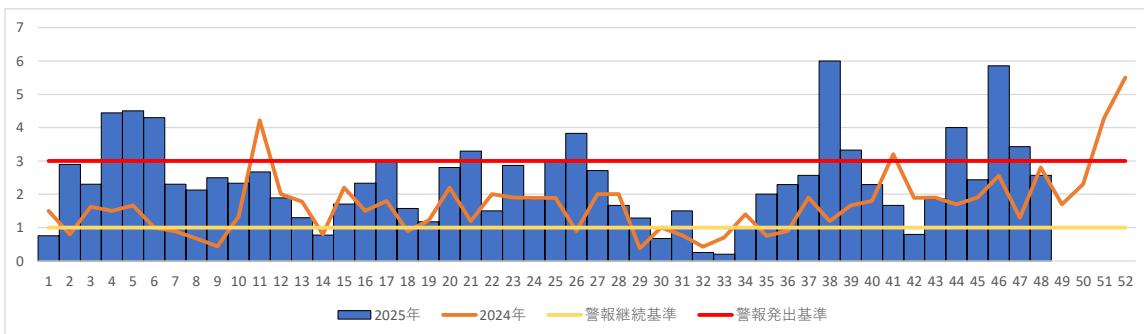
今週のコメント

- 「インフルエンザ」の定点当たりの報告数は46.7（47週48.7、46週36.10）と警報レベルを超えてています。
- 「咽頭結膜熱」の定点当たりの報告数は2.57（47週3.43、46週5.86）と減少も、依然警報継続レベルを超えてています。
- 「新型コロナウイルス感染症」の定点当たりの報告数は1.71（47週1.40、46週2.20）と横ばいで推移しています。
- 手洗い、手指消毒、咳エチケット、こまめな換気等の感染症予防を行い、感染に気を付けましょう。

インフルエンザ（定点把握疾患）山城北保健所管内週当たり報告数 参考：https://www.pref.kyoto.jp/idsc/old/2025ful_3.html



咽頭結膜熱（定点把握疾患）山城北保健所管内週当たり報告数



定点把握疾患 <特定の医療機関（定点医療機関）を定め、その医療機関を受診した患者の数を基に、流行状況を把握>

疾患名	定点あたりの報告数（前週比）	疾患名	定点あたりの報告数（前週比）
インフルエンザ	46.70 (0.96)	手足口病	0.57 (4.07)
新型コロナウイルス感染症	2.40 (1.71)	伝染性紅斑	0.14 (0.33)
RSウイルス感染症	0.29 (0.67)	突発性発しん	0.29 (0.00)
咽頭結膜熱	2.57 (0.75)	ヘルパンギーナ	— (0.00)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.14 (0.83)	流行性耳下腺炎	0.29 (0.00)
感染性胃腸炎	2.57 (1.00)	急性出血性結膜炎	— (0.00)
水痘	— (0.00)	流行性角結膜炎	— (0.00)

定点あたりの報告数 = 1週間の報告件数／定点数

警 報：1週間の定点あたり報告数が、ある基準値（警報の開始基準値）以上の場合に発生します。

前の週に警報が発生していた場合、1週間の定点あたり報告数が別の基準値（警報の継続基準値）以上の場合に発生します。

注意報：警報が発生していないときに、1週間の定点あたり報告数が、ある基準値（注意報の基準値）以上の場合に発生します。

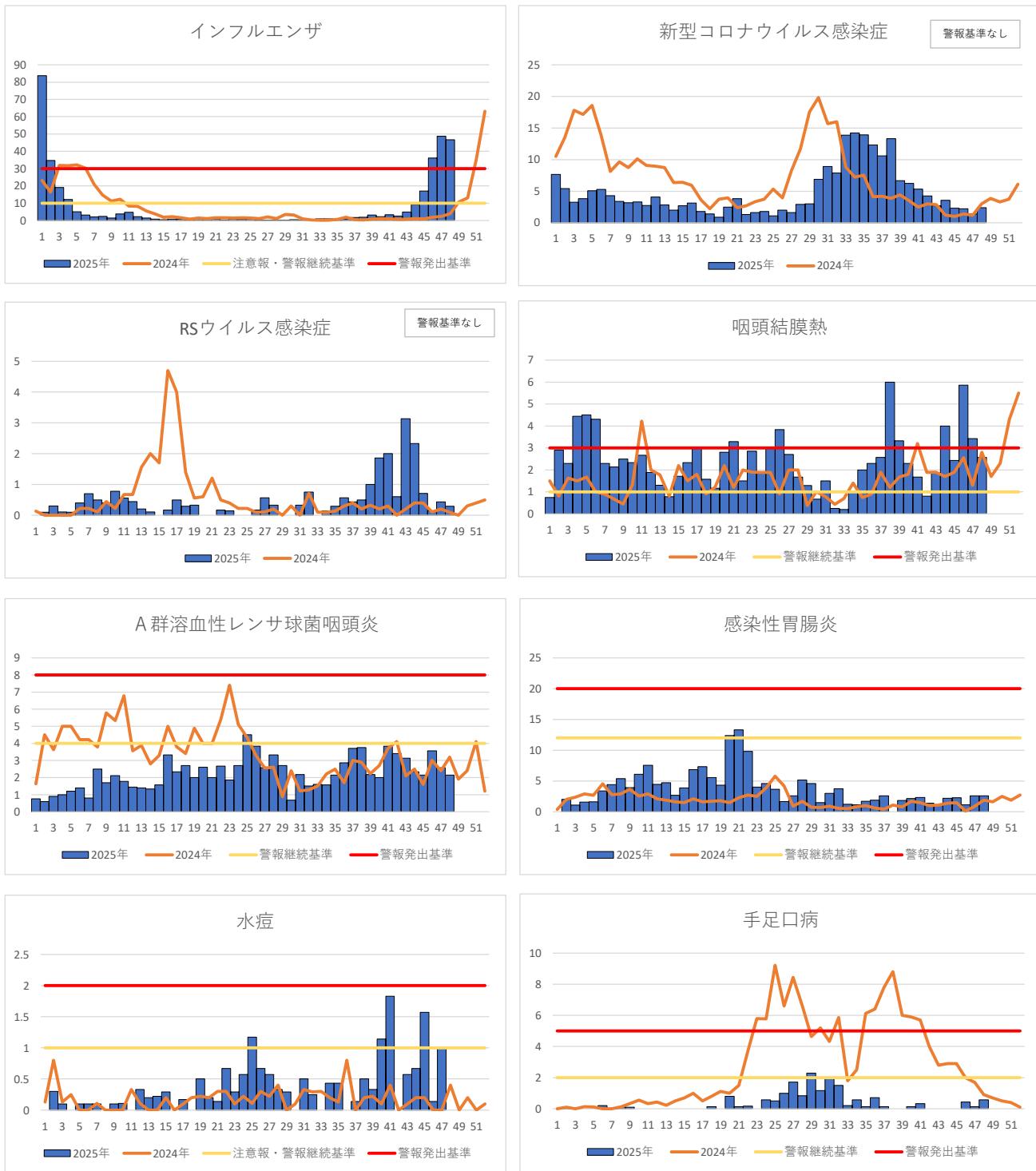
全数把握疾患 <全ての医療機関から医師の届出が義務付けられている感染症>

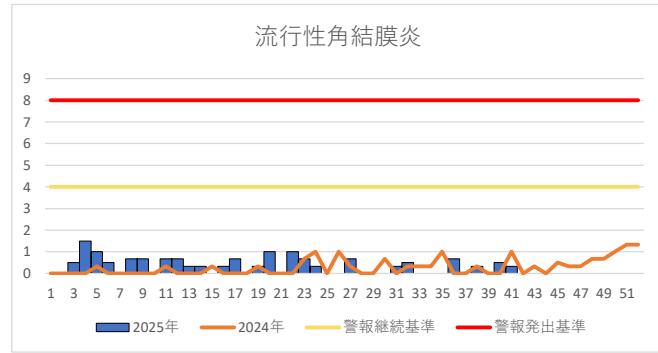
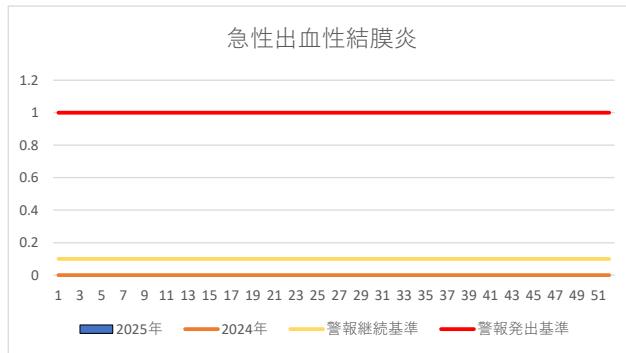
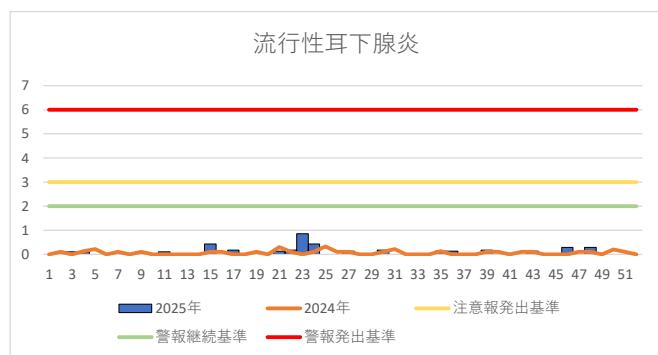
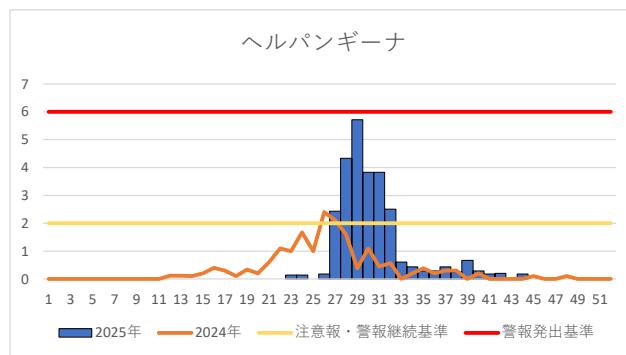
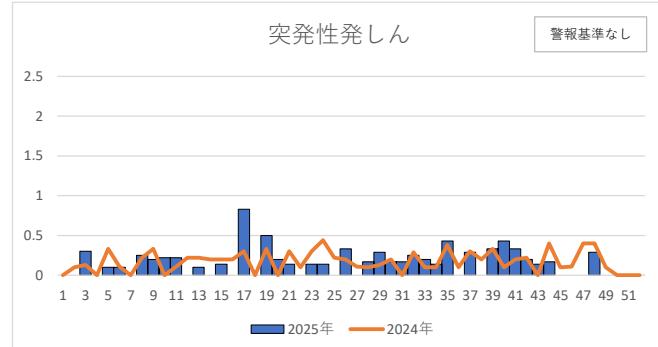
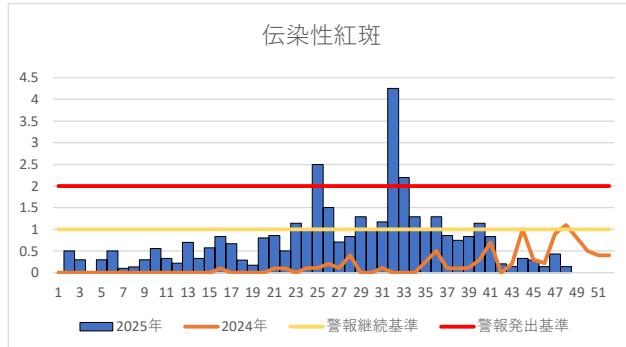
分類	報告
1類感染症	報告なし
2類感染症	結核(2件)
3類感染症	報告なし
4類感染症	報告なし
5類感染症	報告なし

※このデータは速報値であり、今後変更等が行われる可能性があります。ご了承ください。

参考：京都府感染症情報センター <https://www.pref.kyoto.jp/idsc/>

山城北保健所管内定点当たり報告数推移





急性呼吸器感染症（ARI）とは

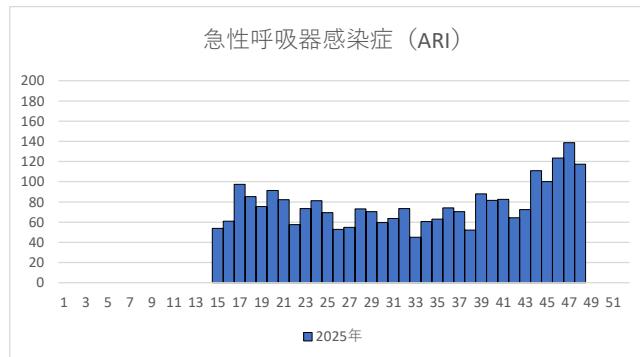
急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection : ARI）とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎）又は下気道炎（気管支炎、細気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

令和7年4月7日からARIが感染症法上の5類感染症に位置付けられ、定点サーベイランスの対象となりました。以下の症例定義（※）を満たす場合に報告対象となることから、インフルエンザやCOVID-19等と診断された場合でも、ARIの症例定義の症状があれば両方の報告対象となります。

※ 咳嗽(がいそう)、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁(びじゅう)、鼻閉(びへい)のいずれか1つの症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

定点あたりの報告数（前週比）	
急性呼吸器感染症（ARI）	117.43 (0.85)

山城北保健所管内定点当たり報告数推移



※ 急性呼吸器感染症：2025年4月7日から集計を開始

参考：京都府感染症情報センター 京都府におけるARI発生状況

<https://www.pref.kyoto.jp/idsc/old/ari.html>